

講義名	異文化理解				授業形態	
担当教員	蘭 梅 / 持田 信治 / 森脇 丈子	開講期・曜口・時限	前期 水曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
当該講義は、大学生活の初期段階での異文化経験により外国語や異文化理解の必要性に気づき、その後の学習に活かすことを目的としています。研修先はベトナムのホーチミン市（予定）です。多様な文化や歴史を体験するプログラムや、現地の学生との交流機会なども予定しています。自文化と異文化の関係性や差異に気づくきっかけになればと考えています。 なお、当該講義は学外研修に参加する準備のための「事前研修」と「現地研修」の両方を含むものです。それら一連の活動に適切に参加し、さらに課題をこなして初めて単位が与えられることを認識した上でのご参加が必要となります。						
到達目標						
上に挙げた全ての活動を通して、次のことを目標とします。 1. 自力で飛行機搭乗ができるよう、空港での手続きなどの一連の流れを理解し、身につける。 2. 現地の学生との最低限のコミュニケーションができるよう、英語表現を身につける。 3. 異なる文化で暮らす人々の考え方や価値観を理解し、尊重する能力を養う。 4. 団体生活において自分を律する能力を養う。						
提出課題						
事前研修では、適宜課題を指示します。 また、現地研修終了後に課題を提出してもらいます。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
課題に対する解説は授業中に行います。						
評価の基準						
以下を総合的に評価します。 ・事前研修への出席および活動内容、授業態度、提出物の評価 ・研修中の態度・活動内容・参加度の評価 ・研修終了後の課題の評価						
履修にあたっての注意・助言他						
現地研修中は集団での活動となり、自分中心の行動は許されない場面が多くなります。集団生活においては「約束を守る」とこと「時間厳守」は鉄則です。事前研修の段階からルーズな態度が見受けられる受講生には、現地研修への参加を認めないことがあります。いずれも、参加者の安全を優先するための措置と理解してください。安易な気持ち、遊び気分での参加は認められません。						
教科書						
.使用しない.						
参考図書						
.なし.						

その他		
授業計画		
1. 事前研修（5回） ・将来のパスポート取得手続きを含めた出発準備 ・留学生とのコミュニケーションに必要な実践英語学習 ・異文化に関する知識の理解等 2. 現地研修 3. 研修課題提出		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	0	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
毎日出される課題について準備しておく（約1時間）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
教材の配布には Moodle を利用する。		
実務経験の有無及び活用		
記述しない		
備考		